

生笑一座！当事者の生の声に胸が詰まった！



「生きてさえいれば」「助けてを言えた時から」笑うことが出来る。死の淵をみてきた人だからこそその重みを笑いに変えての「生笑一座」のステージに「生活困窮者支援の支援を受けた方たちの生の声を、初めて聞きました。」との感想がたくさん寄せられました。さっちゃんの歌う「シャボン玉」が心に残りました。

【生笑一座の座長 奥田知志さんのメッセージ】

ただ1つの大きな闇は、子どもたちがある日、誰に助けてということもなく、突然命を絶っていく。この社会はおかしいと。子どもが「助けて」といってもいいじゃないですか。子どもがいやだったら、いやだといったらいいじゃないですか。子どもはいやだと思ったら逃げればいいんです。泣けばいいんです。でも泣くこともできない、逃げることもできない、助けてということもなく、今年の2学期が始まったときも、全国から悲しいニュースが流れました。でも子どもたちがなぜ助けてと言わないのか、言えないのか。それは大人が言わないからです。この社会全体が禁句のようにしたからです。私たちは「助けて」と言って、一步踏み出した人たち、それが一笑一座です。「助けて」と言えた日が「助かった日」であった。それを体験した人たちです。そういう人たちが子どもの前にいて、大の大人が「助けてと言って助かったよ」そんな話を伝えに今、全国各地の小学校・中学校を回っています。

今年は厚生労働省から自殺対策のプロジェクトに選ばれて、ちょっとお金がついたんですね。それで1月には東京ツアーに行きます。全国の子どもたちに出会いながら、助けてっていいんだよ。生きてさえいれば、いつか笑えるときが来る。死んだらいかん。そういう話を野宿経験をなかなか人前ではいい話ですが、しかしそれを伝えるために全国回っております。是非、応援いただきたい。

今、若者就労支援をしております、NPO法人抱樸で、出汁巻卵の工房をつくって元不良の青年たちが卵を焼いていますので、是非ご賞味いただければと思います。

石巻市の「今」と「未来」を伝える 亀山紘市長



未曾有の震災にみまわれながらも、力合わせ、心を寄せ合いながら復興に向かう石巻市の「今」を伝えてくださった、石巻市長の亀山紘氏。

【亀山紘市長】

東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市は、人口減少に拍車がかかっています。地域が消滅する危機に立たされていることとなります。これからのまちづくりを進めていく上で、本格的な人口減少社会、そして超高齢者社会を踏まえて、町の中心にコンパクトシティ化、都市機能の効果を上げる取り組みを始めています。しかしながら、コンパクトシティ化を進める、拠点と拠点を結ぶ役割を担う交通は大事ですが、地域包括ケアのネットワークで結ぶ、住み慣れた地域で住みつづけることのできる高齢者全体を地域全体で支える街づくりも進めていきたいと考えております。これからも地域のみなさんと一緒になって、そしてNPOとも連携をとりながら、震災後の新しい社会づくりに努めていきたいと考えております。皆さんのご支援を宜しく願いしまして私からの報告をさせていただければと思います。

東北に生きる人々の仕事を協同労働で立ち上げる



2011年3月の大震災震災発生後の7月にワーカーズコープの仲間と共に東北復興本部を設立。

【田中羊子さん東北復興本部 本部長/日本労働者協同組合連合会 専務】東北復興本部を作った当初は、何が出来るかわからないけど、とにかく仕事おこしの協同組合が、一番困難なところに身をおいて、被災者の方々と本当に汗水を共にしながら、はたらく場をつくりたい。そこに挑戦をしようということで、取り組みました。今、問われていること、悩んでいることは、ずっと3年半そうなんです。本当に被災地の人の痛みを我がことにしているんだろうか。私も経験したことのないような困難にぶつかっています。場所がない、建物がない、人が流出してしまって、資格を持っている人もいない。小さな困難がいっぱい生まれているのに、支える制度がない。自治体は応援してくれるよりは、新しいことにはストップをかける役割の方が多い。ただそういうときに立ち尽

くしていると、内部に矛盾が生まれ、対立が生まれ、仲間が疲弊をしていく。だからこそワーカーズコープだけの力ではなく、本当に必要としていること、この地域でやりたいことを地域の人たちに訴えて、呼びかけて、共に協同労働で、人を命につなぐ、「はたらく場」を地域につくりたいんだということを勇気をもって、言えるかどうかが問われていると思っています。

全体会のまとめの挨拶 福岡県生協連 宮崎正義会長理事



【宮崎会長まとめの挨拶から】

皆さんお疲れ様です。

「今、『協同』がつくる2014全国集会in九州沖縄」が多くの方が全国各地からそして韓国からおいでいただきまして誠にありがとうございました。皆さんのご参加により、この集会を成功に導くことができました。

また実行委員会、構成団体をはじめ、今日朝早くから手伝っていただきました裏方のスタッフさんの皆さんのおかげで、無事1日目の集会を終えることができました。

みなさん、今日、一日の企画はいかがでしたでしょうか。長時間でしたが、あっという間に感じるような、とても内容の濃い企画内容だったのではないかと思います。まず姜尚中先生の歴史的な、そして俯瞰的な状況分析をお話ししていただいた上で、地域における協同組織の連携をつくっていくことを提案していただいたと思っています。また農と自然、暮らしと命という子どもと大人のパネルディスカッションでは、山下さん、宇根さんの話も興味深かったのですが、大人が話をしていることを子どもたちはどのように思ったのかということを感じておりました。「大人も結構やるじゃん」と思ってもらったのではないかと考えております。また生笑一座の講演につきましては、元ホームレスで自立をされた方に舞台に立ち、そして自らの経験を話していただきました。このこと自体に強い感動を覚えました。誰もがホームレスになる可能性がある中で、ホームレスになったときに支える環境や仕組みがあることの大切さを実感を持って話していただいたことで、よく理解することができました。最後に東北からの報告では、石巻市長とワーカーズコープが共に連携をしながら、地域復興に向かっている実態の報告を聞きました。私たちは福岡九州にありますが、この課題については、心にとめて、できることをしていかなければいけないということを改めて、思った次第でございます。衆議院が解散されましたが、議員のメンバーが変わったとしても貧困や格差社会という現実には横たわっています。今日の全体集会でも、NPOや協同組合、ワーカーズコープの皆さんが取り組んでいることが報告されましたが、今後もますますこういう課題に取り組む我々の力は求められるし、重要であろうと思います。このことを集会参加者の皆さんと確認をして、また明日からがんばりたいと思います。それでは本日の閉会のあいさつをこれで終わりにしたいと思います。